日本看護技術学会　技術研究成果検討委員会

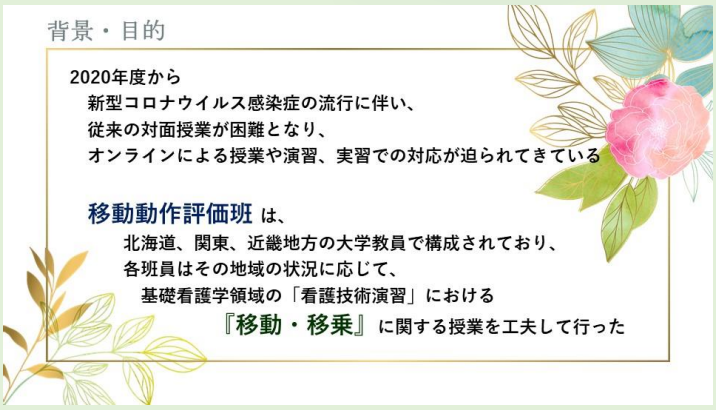
日本看護技術学会第19回学術集会
移動動作評価班交流セッション報告書

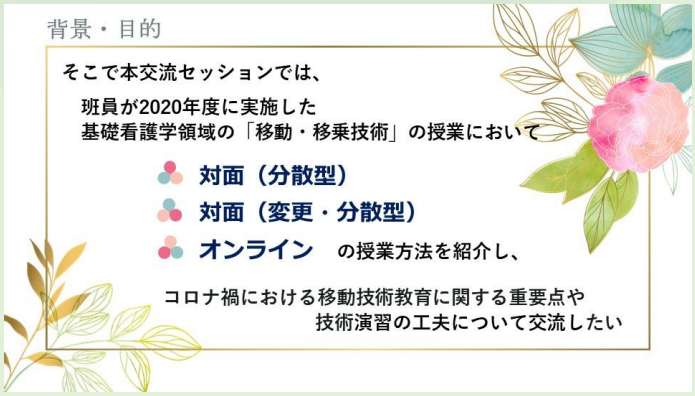
コロナ禍における基礎看護学領域での移動技術教育の工夫

日　時：2021年10月9日（土）
会　場：愛知県産業労働センター（ウィンクあいち）

概要報告

2020年度から新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、従来の対面授業が困難になり、オンラインによる授業や演習、実習での対応が迫られました。移動動作評価班は、班員が北海道、関東、近畿地方の大学教員で構成されているので、その地域の状況に応じて、基礎看護学領域の看護技術演習の移動・移乗に関する授業の工夫を行ってきました。今回は2020年度に実施した、対面（分散型）、対面（変更・分散型）、オンラインのみの3大学おける移動・移乗技術の授業を紹介し、コロナ禍における技術演習の工夫について紹介し、会場の参加者と交流を深めました。





3大学の移動技術教育の工夫

A大学では、コロナ禍では集合学習、時間をかけての実施が困難であるため、事前に自作動画の視聴、授業時間内では複数の方法を短時間ずつの実施、その後の自己学習時間でのトレーニング実施の方法を行った。例えば、車椅子移乗方法では、通常の立ち上がり介助、トランスファーボード・スライディングシートを用いた介助、床走行式リフト介助、スタンディングマシン介助の４つの移乗方法を実施した。

B大学では、対面での演習を実施することが困難な状況であったため、１年次前期「基礎看護方法１」で予定されていた演習「体位変換と移動」２コマを、１年次後期「基礎看護方法２」の講義と入れ替えて、対面（変更・分散型）で実施した。演習では密にならないように、1)体位変換・床上移動、2)車椅子移乗、3)車椅子の移送介助、4)ストレッチャーへの移乗・移送介助の４項目に分けて学生を配置し、ローテーションして体験させた。

C大学は、ZOOMで講義・演習を行い、通信環境悪化に備え、授業後に録画を配信した。講義を聞きながら学生がノートを作成できるように配慮した。ZOOM下の移動技術教育で工夫した部分は、以下である。1)仰臥位から側臥位への動作を自分のベッドで検証。2)体圧分散は、板の間と自分のベッドでの仰臥位での体感の違いで比較。3)スライデングシートの使用方法を学んだ後、大きいビニル袋で、ハイソックスを簡単に脱ぎ着できるかを課題にした。4)缶詰などと大判ハンカチ2枚を用意し、缶詰等の下に敷いてあるハンカチを、別のハンカチに交換する方法を考えた。

参加者アンケートの集計結果

表1. 交流セション6のアンケート結果(n=22)

項目	内容	%
参加手段	対面	41
	ライブ配信	59
参加目的	テーマに興味があった	55
	移動技術教育に興味があった	36
	看護技術教育について情報を得たかった	68
	用具を活用した技術方法について知りたいことがあった	14
	その他	5
授業や演習の工夫	よくわかった	50
	まあまあわかった	45
	あまりわからなかった	0
	全くわからなかった	0
移動動作教育への関心	用具の活用について	50
	オンライン演習について	59
	対面演習の工夫について	50
	授業の組み立てについて	64
	演習の組み立てについて	64
	その他	9

交流セション6の自由記述

・日常生活を通してできる看護を考える工夫が学べました。
・卒業して5年ほどの臨床看護師になります。自分が学生の頃だったら、オンラインでの講義って自分の空間で受ける授業なのであまり集中できなかったと思います。(対面の講義ですっと寝てて授業態度悪かった自覚があるので…)なので、実際にベッドで寝てくる、などの一旦、学生が主体的にやれる場面があるっていうのが、次の話を聞こうという気になれて良いなぁと思いました。聞いてるだけで楽しそうやと思いました。逆に対面でも組み込んでほしいくらいです。
・今回初めて参加させていただきました。技術の演習の発表を拝聴させていただき、自分たちの実践に対して多くのヒントを得られました。
・自分では思いつかなかった代替方法がわかりました。今後の授業展開の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

日本看護技術学会　技術研究成果検討委員会　移動動作評価班一同